

平成 21 年度 男女共同参画に係るアンケート結果

1. 調査方法

調査方法の概要

本調査では、2009年10月から11月に山形大学の常勤教職員と定時・短時間勤務職員全てに対して、男女共同参画に係るアンケート調査を行った。調査対象者 2471 人に配布し、有効回答数は 1329 人分、回収率 53.8%であった。質問項目は、Ⅰ.仕事について、Ⅱ.仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、Ⅲ.生活について、問 1～30 までである。

調査スケジュール

a) 調査準備 2009年8月から10月下旬

- 8月 アンケート実施方法と調査票の検討開始。
他大学・研究機関の男女共同参画、女性研究者支援関連のアンケート調査の調査票と報告書の収集。男女共同参画推進室で調査票の検討開始。
- 9月2日 男女共同参画推進室ミーティングにて、調査票の検討。
- 9月28日～10月8日 男女共同参画推進委員会委員、男女共同参画推進室員で調査票について検討。
- 9月29日 調査票の印刷について印刷業者と打合せ。
- 10月5日 データ入力について業者と打合せ。
- 10月8日 男女共同参画推進委員会にて、アンケートの実施方法と調査票について決定。
- 10月13日 調査票の印刷開始。
- 10月20日 各部局長へ「男女共同参画に係るアンケートのお願い（通知）」。
- 10月23日 印刷業者から調査票納入。
調査票の配布（各学部へは印刷業者から各部局総務へ送付。小白川事務部、附属学校園、事務局等へは男女共同参画推進室から送付）。

b) 調査実施 2009年10月下旬から11月中旬

- 10月28日～30日 各部局で調査票を調査対象者へ配布。
- 11月13日 各部局での調査票提出期限。
- 11月18日 各部局から男女共同参画推進室への調査票送付期限。

c) データ入力・分析・報告書作成 2009年11月下旬から2010年3月

- 11月20日～12月9日 データ入力。
- 12月～2月 調査結果分析。
- 2月12日 「山形大学男女共同参画シンポジウム in2010～見つけよう！あなたのワークライフバランス」で調査結果の一部報告。
- 3月 報告書作成、印刷、配布。

先行調査の検討

男女共同参画推進室に専任教員の着任した8月から、先行調査の検討を始めた。まず、平成18年度～20年度の女性研究者支援モデル育成採択機関の男女共同参画、女性研究者支援関連のアンケート調査の情報を収集した。各機関の調査報告書と調査票を各機関のホームページや、直接各大学に問い合わせるなどして収集した。調査結果についてはホームページや報告書で公表されている機関が多かったが、どのような質問をしたかという調査票については公表していないところも多く、その場合、各機関の担当者に問い合わせ、郵送をいただいた。

今回の調査との調査目的の一致の観点から、特に以下の大学・研究機関の調査を重点的に検討した。熊本大学(2009)、早稲田大学男女共同参画推進室・女性研究者支援総合研究所(2008)、森林総合研究所男女共同参画室(2009)、産業技術総合研究所(2006)、神戸大学男女共同参画推進室(2008)、千葉大学両立支援企画室(2009)の調査を中心に参考にさせていただいた。さらに、女性研究者支援モデル育成採択機関の調査以外にも、関連する調査について結果と調査票を収集・検討した。以上の先行調査は巻末の資料4 先行調査にまとめている。

調査票の作成

平成20年12月に全学の教職員と大学院生を対象に行った調査「男女共同参画に係るアンケート」の調査票(山形大学男女共同参画推進準備室 2009)を土台に、今年度の調査票を検討した。さらに、他大学・研究機関の男女共同参画、女性研究者支援関連のアンケート調査の調査票と分析結果を参考にした。

昨年度との大きな変更点として、今年度は大学院生を調査対象者に含まず、教職員のみを対象にすることとした。そのため、大学院生に関する項目を除外した。さらに年齢の聞き方等、昨年度調査への回答者からのコメントを生かし修正を行った。

また、今年度加えた大きな項目として、山形大学の女性研究者を今後、内部で育てていくべきか、外部から採用するかという戦略を考えるために、以下の2つを加えた。まず、現在の山形大学の研究者の経歴を聞いた。具体的には大学や大学院等で、どのような大学出身だったかを聞いた。また、大学教員に対して、過去3年度に指導した大学院生が何人か、またそのうち何人が研究者を志望していたかを聞いた。

これらの点を中心に、男女共同参画推進室で調査票の検討を行い、その後、各学部の男女共同参画推進委員会委員に調査票の検討を依頼した。そこでの修正を経て、男女共同参画推進委員会にて調査方法と調査票の内容を決定した。

調査票はA4両面印刷で8ページあり、冒頭にアンケートのお願い文、以下質問項目が続く。調査票には、のり付きの封筒をホッチキスで留めてあり、記入後は封筒に入れ、各部局の回収ポスト等に入れてもらうようにした。また、調査票の印刷は、平成20年度も依頼した印刷会社に引き続き依頼した。

回答の多くは数字に○をつける方法であり、自由記述は多くないものの、質問数が多く、回答者の負担は少なくないと思われる。調査に協力していただいた方々に感謝したい。

質問項目

質問項目は問1～問30まであり、いくつかの質問にサブ・クエスチョンがある。質問の内容は以下の

通りである。大きく分けてⅠでは仕事について、Ⅱでは仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、Ⅲでは生活について質問している。詳細は巻末の資料1 アンケート調査票を参照してほしい。

Ⅰ.仕事について

問1～問4 勤務キャンパスなど仕事についての基本属性ほか

問5～問8 大学教員の研究・教育・業務の実態

Ⅱ.仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問9～問15 ワーク・ライフ・バランスに関する意識、仕事の障害となる要因、制度等の認知ほか

Ⅲ.生活について

問16～問21 家族構成など私生活についての基本属性ほか

問22～問28 育児について

問29～問30 昨年度アンケートへの回答・自由記述

調査票の配布と回収

平成20年度の調査と同様に、各部局の総務に担当部局の調査対象者へのアンケートの配布と回収を依頼した。アンケートが調査対象者の手元に届いてから2週間を各部局の締め切りとし、その後、各部局から男女共同参画推進室へと調査票を郵送してもらった。また、本部事務局の各部に対しては男女共同参画推進室から配布と回収を行った。

調査対象者と回収率

調査対象者は山形大学の全ての常勤教職員と、定時・短時間勤務教職員とした。医学部では医員及び研修医、また、他学部では附属支援施設等の教職員を含んでいる。今回の調査も昨年度の調査と同様に、母集団からサンプルを抽出する方法ではなく、山形大学の全ての常勤教職員と定時・短時間勤務教職員を対象とした全数調査である。

手順としては、まず、総務部人事ユニットに依頼し、アンケート調査直前の平成21年10月13日現在の各部局の在籍者数をカウントした。その結果、全学で合計2472人の調査対象者がいることがわかった。

その後、調査対象者在籍数よりも、若干多い部数の調査票を各部局の総務に送付し、全ての調査対象者への配布を依頼した。その際、実際に配布できた部数をカウントしてもらった。その数が次の表での「実際の配布数」である。各部局での配布期間は、平成21年10月28日～30日であり、10月13日現在の調査対象者在籍数から、新たに雇用された者や、逆に退職・休職した者などがあるため、若干であるが人数が異なっている部局がある。その結果、全学で2471人の調査対象者に調査票を配布できた。

回収数は、11月18日までに各部局から男女共同参画推進室へ送付された数であり、全学で1332部である。また、有効回答数は回収部数から白票等3部を除いた数であり、全学で1329部であった。

回収率＝有効回答数(1329)÷実際の配布数(2471)とし、53.8%となった。各部局別の回収率の違いは次の表のとおりである。

各部局別配布・回収数と回収率

部 局	送付・回収 依頼先	調査対象 者在籍数 (注 1)	実際の 配布数 (注 2)	回収数 (注 3)	有効回 答数(注 4)	回収率＝ 有効回答 数/実際の 配布数
人文学部	総務チーム	106	102	31	31	30.4%
地域教育文化学部 大学院教育実践研究科	総務チーム	114	115	34	34	29.6%
理学部	事務ユニッ ト	99	96	45	45	46.9%
医学部 大学院医学系研究科 医学部附属病院	総務ユニッ ト労務チー ム	1323	1322	839	838	63.4%
工学部 大学院理工学研究科	企画総務チ ーム	366	361	144	142	39.3%
農学部	学部チーム (総務担当)	120	120	42	42	35.0%
小白川事務部(基盤教育院, 保健 管理センター, 小白川図書館, 附 属博物館を含む)	総括・人事 ユニット	111	107	43	43	40.2%
附属幼稚園, 附属小学校, 附属中 学校(小白川事務部所属の附属 学校職員を含む)	附属学校事 務ユニット	75	77	33	33	42.9%
附属特別支援学校	学校園チー ム	34	34	27	27	79.4%
事務局(監査室, EM室, 国際化 主幹, 教養教育担当部長, 研究プ ロジェクト戦略室, 評価分析室, 大 学連携推進室, 男女共同参画推 進室を含む)	男女共同参 画推進室	124	137	94	94	68.6%
合 計		2,472	2471	1332	1329	53.8%

注 1) アンケート調査配布前の平成 21 年 10 月 13 日現在の常勤、定時・短時間教職員の在籍数

注 2) 調査期間に実際に調査対象者の手元に配布された数

注 3) 各部局より男女共同参画推進室へ送付された数

注 4) 回収数から白票等を除いた数

この部局別回収率をみると、看護職などを含む医学部、大学院医学系研究科、附属病院の回収率(63.4%)と、事務職員の多い事務局の回収率(68.6%)が他よりも高い。このように部局ごとに回収率の差がかなりある。ここから、以下の2つの点が考えられるので、調査結果を読んでもらう際には、それらを考慮して読んでほしい。まず、1つめに、職種によって回答の協力のしやすさに差があり(例、大学教員は回収率が低いなど)、回答に協力しやすい職種が多い部局の回収率が高くなった可能性がある。2つめに、調査表の回収方法は各部局に一任し、各部局の内情にあわせて回収をしてもらったので、回収方法の違いが、部局の回収率の差になった可能性がある。

その他、今回の調査は、山形大学の全ての常勤教職員と定時・短時間勤務教職員に対する全数調査であり、母集団から無作為にサンプルを抽出し、母集団に対して統計的な推定や検定を行うという標本調査ではない。そのため、今回の調査結果を、山形大学の全ての教職員と定時・短時間職員という母集団に対してもいえるかという統計的な推定や検定は基本的には行わない。ただし、分析結果によっては表や本文中で、検定等の結果を記すこととするので、適宜参考としてほしい。

データ入力と分析

回収した調査票のデータ入力に関しては、平成20年度調査のデータ入力を行った業者に依頼した。データを入力したエクセルファイルを男女共同参画推進室へ納入してもらい、その後、回収した調査票はシュレッダー処分を行った。

データ入力に関しては、適宜対応したが、主な原則として以下のように対応した。

・空欄等の処理

無回答(答えるべき質問に答えておらず、空欄) 777

不正回答(答えるべきでない質問に答えている、文字が読めない等) 888

非該当(答えるべきでない質問に答えていないので、空欄) 999

・問9から12の4件法の入力について

数字の間に○をつけている場合は、○に近い数字を入力した。数字のちょうど中間に○を付けている場合は、中心に近い数字を選択した。具体的には1と2のちょうど中間の場合は2を、3と4の間の場合は3を入力した。2と3の間の場合は、不正回答888とした。また、1より左の場合は1を、4より右の場合は4を入力した。2つ以上の数字に○をつけている場合、不正回答888とした。

・問19 家事の時間等

時間は分に変換して入力した。

・問21 理想の子供数について

2~3人などの場合は平均をとって2.5人とした。

調査結果の分析は男女共同参画推進室で行った。入力後のデータを整え、統計解析ソフト PASW Statistics 18(IBM SPSS Statistics 18)を使用し、分析を行った。その後、図表等については主に EXCEL を使用し、作成した。